

1. 教科の目標

- ・相手や目的に応じ、調べた事などについて、筋道を立てて話すことや話の中心に気を付けて聞くことができるようにするとともに、進んで話し合おうとする態度を育てる。
- ・相手や目的に応じ、調べた事などが伝わるように、段落相互の関係などを工夫して文章を書くことができるようにするとともに適切に表現しようとする態度を育てる。
- ・目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読むことができるようにするとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。

2. 到達目標

観点	国語への関心・意欲・態度	書く能力	話す・聞く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
目標	国語に対する関心を持ち、進んで話し合ったり、適切に書いたり、読書の範囲を広げたりしようとする。	相手や目的に応じ調べたことなどについて、筋道を立てて話したり、話の中心に気を付けて聞いたりする。	相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係を工夫して文章を書く。	目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む。	音声、文字、語句、文や文章、言葉遣いなどの国語についての基礎的な事項について理解している。書写では文字の大きさ、配列、毛筆では、点画の接し方、交わり方、方向、文字の組み立て方などを理解して文字を正しく書く。

3. 年間指導計画

月	学習内容	学習のねらい
4	人物の気持ちを想像しながら声に出して読もう。 (こわれた千の楽器) (ふしぎ)(よかったなあ)	・場面の様子や人物の気持ちを想像し、想像したことが聞き手に伝わるように工夫して声に出して読む。
5	漢字辞典の使い方を知ろう 出来事をしようかいつするスピーチをしよう(知らせたい、あんなことこんなこと)	・漢字辞典の仕組みや使い方を知り、漢字の学習に活用する。 ・必要なことを落とさずに、声の大きさや速さ、間のとり方を考えて話す。 ・お世話になった人にお礼の手紙を書き、相手に気持ちが伝わる文章を書く。 ・主語と述語について理解し、文の構成上の役割を知る。
6	主語と述語の関係をとらえよう だん落とだん落の関係を考えて (ヤドカリとイソギンチャク) 電話で伝えあおう。	・段落相互の関係を考えて、書かれていることを正しく読み取る。 ・電話で話す時に大事な事を落とさないように、話し方や聞き方で注意する事を理解する。
7	漢字の読み方に気をつけよう 物語のもりあがりを考えながら読もう (夏のわすれもの)	・漢字の音訓や送り仮名について理解する。 ・物語の出来事の流れを読み取り、もり上がりをとらえる。
9	筋道を立てて説明しよう (くらしの百科の時間です)	・生活の「くふう」について調べ、聞き手の興味をひくような工夫をし、筋道を立て説明する。
10	ローマ字 情愛の心を描いた物語を読もう	・ローマ字で書かれた簡単な単語を読み、ローマ字を使って単語を書く。 ・人物の気持ちや場面の様子に注意して、物語の出来事の流れを読み取るとともに、読んだ本についての感想を伝え合う。
11	心の目を開いて いろいろな環境を守るくふうについて調べよう(ウミガメのはまを守る) 文と文をつなぐことばの働きを考えよう	・感じたことや想像したことを、表現を工夫して詩に書く。 ・事柄のまとまりごとに書かれている内容を正しく読み取り、環境保護の工夫について調べる。 ・文と文を接続する言葉の働きを理解する。
12	中心をはっきりさせて書こう (活動報告を書こう)	・段落と段落の続き方に注意して、伝えたいことの内容をはっきりさせて文章を書く。
1	くらしの中の世界について話し合おう (くらしの中の和と洋) 漢字を正しく使おう	・「和」と「洋」の対比に注意して文章の要点を読み取り、暮らしの中にある日本の文化と外国の文化について考える。 ・それぞれの漢字には意味があることを理解し、同訓・同音の漢字を正しく使い分ける。
2	人物の気持ちのうつりかわりを考えよう。(ごんぎつね)	・場面の移り変わりや人物の気持ちの変化をとらえ、心に強く残ったことを考える。
3	伝えたいことを選んで書こう(一年間の思い出をしようかいいしよう) ローマ字	・一年間の思い出から題材を選び、紹介の方法を工夫して書く。 ・身近な生活の中のローマ字表記について知り、ローマ字の読み書きに慣れる。

4. 評価の観点・方法

- ・次のような方法で評価していきます。
発表内容 ノート 音読 テスト 発表会 作文 感想文 読書カード

5. 保護者の皆様へ

音読練習などを基礎学力の定着のために家庭学習で行うことがあります。その際にご協力をお願いいたします。